

「中央アジア+日本」対話行動計画の進捗状況に関する報告 (タジキスタン共和国)

2010年8月7日

2006年6月5日東京において開催された「中央アジア+日本」対話の枠内における第2回外相会合において、中央アジア諸国と日本の協力の基本方向を含む「行動計画」が新たに署名された。同計画の採択により、日本の参加による、世界の繁栄と中央アジア地域の安定確保への貢献に向けた諸プロジェクトの地域内諸国における実施の輪郭が出来上がった。

本報告は、政治対話、地域内協力、ビジネス促進・発展、知的対話及び文化交流・人的交流として「行動計画」に反映されている協力の5つの基本方向に関する中央アジア諸国と日本との協力におけるタジキスタン共和国の成果を反映するものである。

1. 政治対話

タジキスタン共和国は、第1回外相会合の結果に関する共同声明において反映されている考えへの支持を確認するとともに、友好、相互尊敬、善隣及び双方の利益の遵守の諸原則に基づく、地域内諸国と日本との互恵的、多面的パートナーシップの発展及び拡大を一貫して支持している。タジキスタンは、外相レベル、外務省高級実務者の参加を伴う代表者レベルにおいて行われた諸会合を含め、この形式での政治対話の強化に関して、本件対話の枠内にて実施された諸行事に積極的に参加している。

- 本報告の期間中、ドゥシャンベ市において、タジキスタン、カザフスタン、キルギス、ウズベキスタン及び日本の政府、政府関連機関及び民間企業の代表が参加した第1回作業グループ会合(2006年12月13日)が行われた。日本及び中央アジア諸国間の地域内協力及び経済関係発展の強化のために、各国により準備された具体的なプロジェクトについて意見交換が行われた。
- ドゥシャンベ市において、「行動計画」進捗状況報告書の事前合意、地域内協力の問題及び具体的プロジェクト提案を議題とする第3回高級実務者会合(2007年12月13日)が行われた。
- タジキスタン共和国及び日本は、現在の緊急課題、特に国連組織及び国連の主要機関である安全保障理事会の改革に関して、国連の諸機関を含む国際・地域機関の枠内での国際舞台において積極的に協力している。この観点から、双方は、国際社会が現在の発展段階において直面する脅威や挑戦の効果的克服の方途の探求、大量破壊兵器の削減と不拡散の国際システムの維持・強化におけるパートナーシップ関係を支持している。タジキスタン共和国及び日本は、アジアにおける平和と安定の推進に関して常に協力を行っている。

2. 地域内協力

(1) テロ・麻薬対策

社会の経済的基盤及び人間の健康に対する直接の脅威であり、多国間組織犯罪の拡大、様々な傾向のテロ・過激主義グループの活動への資金援助にとって都合の良い基盤を創り出している麻薬物資の生産規模及び不法流通の絶えざる増大は、今日、深刻な世界的問題の一つとなっている。

タジキスタンは、その地理的位置により、麻薬物資の中継輸送ルートにあり、既に20年間に亘り、現代世界のこの脅威への対策の最前線における緩衝地帯の役割を果たしている。タジキスタンは、麻薬密輸量の増加を考慮し、国際社会に対して、この脅威への対策において共通の努力を結集することを呼びかけている。タジキスタン共和国は、麻薬不法流通問題をテロリズムの問題と切り離して解決することはできないという事実を確認するとともに、二国間及び多国間ベースにおいて、すべての地域内諸国との広範な協力を行っている。

- 在タシケントの上海協力機構(SCO)反テロ地域機構、在アルマティの中央アジア情報・調整センター、在キルギスのCIS反テロセンター中央アジア地域支部の活動の枠内における、これらの脅威への効果的対策のために、タジキスタン共和国は、地域内諸国の関係諸機関と治安機関との活動を調整している。これらの組織においてタジキスタンによって執られた努力は、テロ組織及びその支援者、麻薬の不法流通に従事する多国間組織犯罪グループの活動の予防、摘発及び阻止に向けられている。反テロ共同措置の組織化及び実施、情報の技術的保護とその交換手続きに関する文書が同意・採択され、テロリスト及び麻薬の地域への侵入ルートの摘発・閉鎖における協力が行われている。
- SCOの枠内では、2006年に行われた首脳会合において、テロリズム・分離主義・過激主義への対策に関する2007—2009年のSCO加盟国協力プログラムが採択された。
- タジキスタンは、2008年8月ドゥシャンベにおいて開催されたSCO加盟国・オブザーバー首脳会合において、ドゥシャンベにおけるSCO麻薬対策センター設置を提唱した。
- テロ及び麻薬不法流通対策として、タジキスタンは、国連専門機関及びOSCEを含む国際機関との密接な協力を行っている。国連との協力による、タジキスタン共和国大統領附属麻薬不法流通対策庁の成功裏の活動は、タジキスタンと国際社会及び国際機関との効果的協力の顕著な模範となっている。
- 2009年、タジキスタンにおいて、日本政府の資金協力によるOSCEのプロジェクトとして、アフガン(内務省・警察)幹部教育プロジェクトが実施された。
- EUの中央アジア国境管理プログラム(BOMCA)/中央アジア麻薬行動プログラム(CADAP)にしたがって、国内の法執行機関の犬養成専門家及び捜査犬訓練のための共和国訓練センター建設が計画されている。同センターにおいて、アフガニスタンの犬養成専門家及び捜査犬の訓練が計画されている。

- タジキスタンは、地域内における麻薬状況の進展傾向を考慮し、アフガニスタン・イスラム共和国との協力強化に特別の関心を払っている。
- アフガニスタンとの間で署名された協定にしたがって、タジキスタン共和国と国境を接する4カ所のアフガン地方(バダフシャン、タホール、クンドゥーズ及びバルフ)において、タジキスタン共和国大統領附属麻薬不法流通対策庁の連絡将校が成功裏に活動している。麻薬商人及び麻薬物資運搬ルートの摘発のための、麻薬不法流通対策庁代表者とアフガニスタンのカウンターパートとの共同活動は、好結果をもたらしている。
- 2009年、カブールにおいて、アフガニスタン内務省麻薬対策警察分析部隊職員のためのトレーニングが行われ、2010年2月、タジキスタン共和国内務省アカデミー及び麻薬不法流通対策庁の基地において、隣国アフガニスタンの麻薬対策警察部隊職員35名のためのトレーニングが行われた。
- アフガニスタン・バダフシャンからゴルノバダフシャン自治州を經由するキルギス・オシ州への麻薬密輸の封鎖及び中国からアフガニスタンへの先駆物質のあり得べき中継を規制するために、米国政府の資金協力による国連薬物犯罪事務所(U NODC)のプログラムにより、ゴルノバダフシャン自治州のムルガブ郡及びイシカシム郡における麻薬不法流通対策庁支部の建設が完了しつつある。また、ゴルノバダフシャン自治州ダルヴァズ郡(アフガニスタン・イスラム共和国バダフシャン地方との国境郡)及びジルガタル郡(キルギス共和国オシ州との国境郡)における麻薬不法流通対策庁の新たな小支部の設立が計画されている。
- 国際閣僚級会合「中央アジアにおける国境管理及び麻薬統制」(2008年10月21—22日、ドゥシャンベ)において、麻薬不法流通対策を行っている法執行機関職員のための訓練・再教育のためのセンター設立が提言された。

(2) 貧困削減

- タジキスタン共和国は、UNDP、アジア開発銀行、世界銀行その他の国際機関の協力の下に、2010—2012年の貧困水準削減戦略の実現に着手した。同文書は、発展を保障する優先的方針として、国家管理改革の拡大、民間セクター発展、更なる投資誘致、人的資源の役割強化を規定している。2010—2012年の戦略として、2012年末までの貧困水準の40%までの低下を最終目標とする国の安定した社会・経済発展を保障する必要な諸措置のありある実施が規定された。
- タジキスタンは、貧困削減の一環として、2007年、ハترون州においてタジク・アフガン・ビジネスフォーラムを、またアフガニスタン・クンドゥーズ市においてタジク・アフガン企業物産展を開催した。
- 日本は、本報告書対象期間において、小規模無償資金協力として、タジキスタンにおける農業技術訓練センター整備プロジェクトを実施し、タジキスタン・ラシュト郡、タヴィルダラ郡において、日本のNGO「難民を助ける会」が実施する障害者団体能力向上(養蜂)への資金協力を行った。

(3)保健医療

- タジキスタンは、感染症発病率に関する四半期毎の情報交換、感染症予防措置を規定した文書の交換、国境での感染症対策のための技術支援の相互提供、専門家育成に関する協力を含む種々の措置の採択を通じ、感染症対策のための地域内ネットワークの充実を図っている。
- 2004年から2009年までの期間、日本は、直接または国連の様々な専門機関・基金を通じて、病院・医療施設の改修、タジキスタンの医療施設への特殊医療機材、基本的医薬品及びワクチンの供与を含む保健分野における一連のプロジェクトを実施した。
- 2010年初頭から、ドゥシャンベ市の病院における太陽光活用発電システム導入に関する無償資金プロジェクトが日本によって実施されている。

(4)環境保護

- タジキスタンは、アラル海救済国際基金の活動活性化及び環境保護分野におけるその他の協力に関し、地域内諸国と定期的に協議・交渉を行っている。
- 2010年6月8—10日ドゥシャンベ市において開催された国際行動10年進捗の包括的中間評価のためのハイレベル国際会議「生命のための水2005—2015年」において、2011—2015年のアラル海流域諸国に対する支援に関する第3期活動準備の提案が行われた。
- 2010年初頭、日本は、太陽光を活用したクリーンエネルギー導入のための総額500万米ドルの無償支援を供与し、ドゥシャンベ市の病院に対する太陽光発電装置装備プロジェクトが実施されている。

(5)防災

- 既存の二国間協定(複数)に基づき、キルギス、タジキスタン及びウズベキスタンの関係省庁の専門家は、山岳地帯の湖の上空からの観測活動において定期的に協力している。
- ウズベキスタン非常事態省とタジキスタン政府附属非常事態・市民防衛委員会との間で、サレズ湖決壊に関連する非常事態の脅威及び発生に際しての通報手段が作成された。
- CIS非常事態国家間評議会、集団安全保障条約機構、SCOの枠内で、自然・工学的性格の災害予防に関するセミナー、会議、演習及びその他の措置が行われている。
- 2007年6月、タジキスタンは、アスタナ市においてカザフスタンと日本の共同議長の下に開催された、中央アジアで初のアジア防災会議に参加した。同会議において中央アジア諸国は、災害リスクの効果的の低減、地域内の持続的開発のための防災面における地域協力促進の緊急の必要性を再確認した。

(6) エネルギー/水

- 国内のエネルギー自立の保障を実現するため、現在、タジキスタンにとって死活的重要性を有する諸施設での建設・再建工事が継続されている。
- その中には、ラグーン水力発電所、サングトゥーダ2水力発電所、第2ドウシャンベ熱併給型火力発電所、ヴァフシ川、ゼラフシャン川及びスルホブ川の中小水力発電所、タジキスタン・アフガニスタン間高圧電線、ヌレク発電所を含むヴァルゾブ川及びヴァフシ川の水力発電所施設並びにタジキスタン北部のカイラクム水力発電所の再建が含まれる。水力発電分野において、タジキスタンにより実施されている諸プロジェクトは、地域内の経済・技術・灌漑インフラの改善にとっても決定的な重要性を有する。
- 国際行動10年進捗の包括的中間評価のためのハイレベル国際会議「生命のための水2005—2015年」(2010年6月8—10日、ドウシャンベ市)、の枠内において、タジク側は、「タジキスタンの水力エネルギー潜在性の開発及び中央・南アジアにおける水力エネルギー問題解決のための同潜在性の意義」をテーマとする特別セッションの開催を主導した。本セッションは、国連の後援により実施された国際会議自体と同様、国際・地域社会の様々な水問題に関する意見交換や幅広い議論の格好の場となった。
- 日本は、タジキスタン共和国ハترون州ハマドニ行政郡の給水計画の基本設計調査プロジェクトを終了し、同計画は現在実施中である。

(7) 貿易・投資

- タジキスタンは、ゴルノバダフシャン自治州のアフガン国境地帯に3カ所の国境貿易マーケットを開設し、タジキスタン・アフガニスタン間の商取引を促進している。
- 2007年2月から3月にかけて、通関、運輸・物流システム及びインフラの分野における貿易阻害要因を除去するためのプロジェクト形成を目的とする日本の専門家グループがタジキスタンを訪問した。
- 2008年、タジキスタン共和国税関職員のための(日本・EU)共同セミナーが開催された。

(8) 輸送

- 現在、タジキスタンでは、国内の輸送隘路からの脱却戦略の一環として、輸送分野において経済的意義を持つ一連のプロジェクトが実施されている。その中で最も重要なものは、ドウシャンベ・チャナク、ドウシャンベ・クリャブ・カライフムブ・ホログ・クリマ、ドウシャンベ・サリトシュ及びクルガンチュベ・ドウスティの各道路、イスティクロール、オゾディ、シャフリスタン及びチオルマグザクの各トンネル、ドウシャンベ・クルガンチュベの鉄道の建設及び再建である。
- タジキスタンでは、2007年、アフガニスタンとの国境において「友好」橋が開通し、国内北部では「イスティクロール」及び「シャフリスタン」トンネルの全面開通が期

待されているが、これは中央アジア諸国とアフガニスタン・南アジア諸国との輸送網構築に展望を開くものである。

- 輸送分野におけるタジキスタンと日本間の協力は常に実施されている。例えば、2006年から日本政府の資金協力の下で、日本企業が施工業者となっている道路の建設・改修プロジェクトが実施されている。
- タジキスタンでは、日本の無償資金協力(総額13億3,200万円)により、ドゥステイ及びニジノピヤンジを経由して、アフガニスタンとの国境に位置する「友好」橋に繋がる道路の整備工事が行われている。現在、日本企業「西松建設」による、ドゥステイ・ニジノピヤンジ間の道路改修プロジェクトの第1段階が終了している。
- 2009年、日本政府は、上記プロジェクト第2段階実施、クルガンチュベ・ドゥステイ間の道路改修工事を含むプロジェクトの実施のための資金を拠出した。上記プロジェクトでは、日本企業「NIPPO」及び「大日本土木」により建設工事が行われている。

(9) 予防外交

- 2007年12月、全ての地域内諸国の参加により、アシガバードに国連中央アジア予防外交センターが開設された。タジキスタンは、同センターが地域内対話及び紛争を予防するための広範な協力の効果的手段となる得ることを考慮し、同センターの活動に積極的に参加し、水資源の共同利用、中継輸送等の地域内の緊急課題に関する同センターの枠内での諸措置の実現に関心を有している。

(10) 地雷除去問題

タジキスタンは、地雷の脅威の深刻な結果を考慮し、「対人地雷の使用、貯蔵、生産及び移譲の禁止並びに廃棄に関する」1997年のオタワ条約から発生する自国の国際義務を履行するため、地域内での協力を特に重視している。タジキスタン地雷センターは、国際機関との協力により、タジキスタンにおける地雷除去計画を一貫して実施している。

- 日本は、タジキスタンにおける地雷除去計画の実施に対し応分の貢献を行っている。例えば、これまでに日本側は総額25万米ドル(2004年)及び3万ドル(2005年)の資金協力を行った。
- 2009年、日本は、総額33万6,000米ドルの地雷除去3チームの活動に対する資金協力を行った。2010年には、日本側が地雷無害化機材1セットの購入及び同機材管理要因の訓練費支払いのため、総額77万5,000米ドルの資金を拠出することが期待されている。
- 2009年11月、ドゥシャンベ市において、地雷除去野での協力に関する地域会議が開催された。
- 同会議の勧告にしたがい、タジク側は、ドゥシャンベでの地雷除去に関するOSCE地域調整会議の開催を提唱した。2010年7月16—17日にアルマティにおいて

開催されたOSCE加盟国外相非公式会合第2回会議において、タジク側は、本年、上記センターを開設することをOSCEに呼びかけた。

(11) 国境管理

- 国境の強化及び国境管理改善の問題は、タジキスタン共和国政府の優先的活動方針の一つである。その際、国境の整備及び国境の強化は、中央アジアにおけるテロリズム、過激主義及び麻薬密輸への更なる対策として有効な措置である。
- OSCEとの共同により、国境管理国家戦略が策定された。
- アフガニスタンから発生する脅威を考慮し、OSCEその他の国際機関と共同でアフガニスタンとの国境管理のための大きな活動が行われている。
- OSCEドゥシャンベ・カレッジを基盤に、アフガン国境警備隊員の訓練が行われている。
- 2010年には、ドゥシャンベにおいて国境管理に関するドナー会合の開催が予定されている。

3. ビジネス振興

- タジキスタン共和国政府により、投資環境を改善し、投資のための好条件を保障する現実的かつ本質的諸措置が実施されている。
- 最近の数年間において、あらゆる生産・技術設備、医療サービス及び薬剤輸入に係る企業活動、教育及び水力発電所建設分野におけるサービスの供与は、付加価値税及び関税の支払いが免除されている。
- 2009年、全ての種類の企業活動のために、付加価値税が20%から18%まで、利潤税が25%から15%までそれぞれ引き下げられた。
- 日本と中央アジア諸国は、2006年12月、ドゥシャンベ市において、「中央アジア＋日本」対話での第1回経済作業部会を開催し、官民の協力により地域横断的なプロジェクトを形成する可能性を議論した。同年、日本からタジキスタンへ初めて官民合同の経済ミッションが派遣された。日本・タジキスタン・ビジネスフォーラムが開催された。
- JICAの資金協力の下、2010年2月、無償資金協力案件「タジキスタンにおける営農指導体制向上プロジェクト」(総額150万米ドル)が開始された。
- 2010年、日本政府により、タジキスタン共和国農業省の「タジクアグロリージング」によって提出された、総額205万米ドルの無償資金プロジェクト「貧困農民支援」が承認された。

4. 知的対話

- タジキスタンは、国際交流基金の協力により、日本外務省により実施された「東京対話」フォーラムに積極的に参加している。専門家や政府代表者から成るタジキスタン代表団は、同フォーラムの4回の全ての会合(2006年、2007年、2009年及び2

010年)において、自国のプレゼンテーションを行い、「水資源及びエネルギーに関する中央アジアにおける地域協力の展望」、「中央アジアのエネルギー供給ルートの多角化の展望」、「環境保護」及び「物流インフラ整備問題」の各テーマに関する議論が行われた。

5. 文化交流・人的交流

この分野では、タジキスタン共和国は常に活動を行っている。本報告書対象期間において、日本及び地域内諸国との文化交流の強化及び国際文化対話の発展に向けた諸行事が行われた。

- 2006年9月、タジキスタン共和国は、(社)日本旅行業協会(JATA)が開催した国際観光会議・世界旅行博に参加した。
- 2008年、タジキスタンにおいて、セミナー、日本アニメ映画祭、生け花・折り紙、日本の伝統衣装展示会・デモンストレーションが行われた。
- 2009年からタジキスタンのための日本の無償資金協力として、「人材育成奨学計画(JDS)」が実施されている。
- 2009年9月、ドゥシャンベにおいて、日本文化の日が実施された。
- 2007年、アスタナ市及びアルマティ市において、カザフスタンにおけるタジキスタン文化の日が行われた。
- 2008年、ドゥシャンベ市において、タジキスタンにおけるカザフスタン文化の日が行われた。
- 2008年、ドゥシャンベにおいて、CIS諸国創造的知識人フォーラムが行われ、学者、詩人、作家、マスコミ活動家及び教育分野の代表から成る全中央アジア諸国の代表団が積極的に参加した。
- 2010年、トルクメニスタンにおけるタジキスタン文化の日及びタジキスタンにおけるトルクメニスタン文化の日の実施が計画されている。

(了)